

◆普及指導員の資質向上

令和6年度水産業普及指導員九州ブロック研修

八重山農林水産振興センター 棚原 奎

1 目的

水産業普及指導員九州ブロック研修（以下、普及員研修）は、九州各県の水産業普及指導員資質向上と情報交換を目的とし、毎年度九州各県持ち回りで開催されている。令和6年度は鹿児島県が開催県となり、各県の普及事例報告と現地視察研修が実施されたため、これに参加した。

2 内容

開催概要は以下の通りであった。

(1) 開催日時

- ア 令和6年11月21日（木）16:30～17:25 普及指導員九州ブロック研修会
- イ 令和6年11月22日（金）9:00～13:00 現地視察

(2) 開催場所

- ア カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）東棟4階大研修室
- イ（ア）薩摩串木野まぐろの館
- （イ）江口蓬莱館

(3) 議題等

- ・各県事例報告 各県5分×8県
- ・その他 次回開催県等

11月21日、研修会にて各県の事例報告が以下の通り行われた。

※（）内は普及項目の分類

- 福岡県：「県産水産物の魚食普及」（地域振興）
- 佐賀県：「定置網漁業の漁具・漁場診断について」（漁業技術）
- 長崎県：「漁船漁業の複合経営化の支援について」（その他）
- 熊本県：「芦北町地先における被覆網によるアサリ資源管理」（資源管理）
- 大分県：「臼杵干潟におけるアサリ資源回復活動」（増殖）
- 宮崎県：産直ECの活用によるハモの魚価向上」（流通）
- 鹿児島県：「水産加工・直販等グループの育成」（地域振興）
- 沖縄県：「八重山海域におけるハダムシ症の発症水温」（養殖）

事例報告後、これまでの幹事県持ち回り順に従って、沖縄県が令和7年度普及指導員九州ブロック研修会幹事県となる連絡があった。

11月22日、鹿児島県内の物産館2件を視察し、全日程を終了した。

3 所感

各県事例報告においては、前述した通り多岐にわたる項目で報告があった。中でも、長崎県対馬水産業普及指導センター

の取り組んだ「漁船漁業複合経営化の支援」について特筆する。背景は上対馬のアマダイ漁における、一本釣りや延縄漁を行う漁業者間での漁場競合の問題から、漁船漁業の複合経営化を支援したというものである。長崎県は県単独事業で漁業経営指導を支援しており、中小企業診断士の指導を受けて対象のアマダイ延縄漁業者の経営計画書を作成。さらに、県単独事業により、沖合で別の魚種を対象とした新規漁法（深海延縄漁）の開始にかかる漁労資機材（ラインホーラー、高強度ベクトラン幹縄）の導入にかかる支援を実施した。また令和5年度中に別途5件の支援を行ったとのことであった。中小企業診断士の下で具体的な経営計画書を作成させ、その後の支援の必要性や実効性を担保し、新規漁法への取り組みに挑戦させるという流れは、複数の事業が単発で終わるのではなく連続的に構成された好事例であると感じた。

また、視察を行った2件の物産館の内「江口蓬萊館」については、日置市が施設の所有で、江口漁協が指定管理となっており、施設概要としては物産館、水産加工場、野菜保冷库、研修室、生シラス製造設備といった構成である。当初の主力品目であったタイ、シラスの水揚げ量が激減したことで、漁協の若手漁師が任意団体を立ち上げ、地域の特産品であった「ツキヒガイ」を売り出し始め（図1）、漁協も養殖された貝を一定価格で買い上げることで軌道に乗せていた（図2）。鹿児島県の支援策として、地域特産品であることを特色として売り込み、大手量販店でのPR活動や動画制作、配信などソフト面での支援にも取り組まれていた。現在は漁港区域内の市有

地を活用し、ツキヒガイも含めた海産物をBBQで味わえるコースと場所を用意するといった、6次産業化、海業化への発展を見せている（図3）。

さらに、令和6年度は九州ブロック漁業士研修会と合わせての開催となったことから、九州各県の普及指導員だけではなく、漁業士とも交流が深められ、大変有意義であった。



図1 ツキヒガイ商品の一例



図2 江口蓬萊館（江口漁協）6次化広告チラシ

地域の特産品「月日貝」を活用した町人口創出拠点づくりの取組 江口漁港（鹿児島県日置市） 様式2

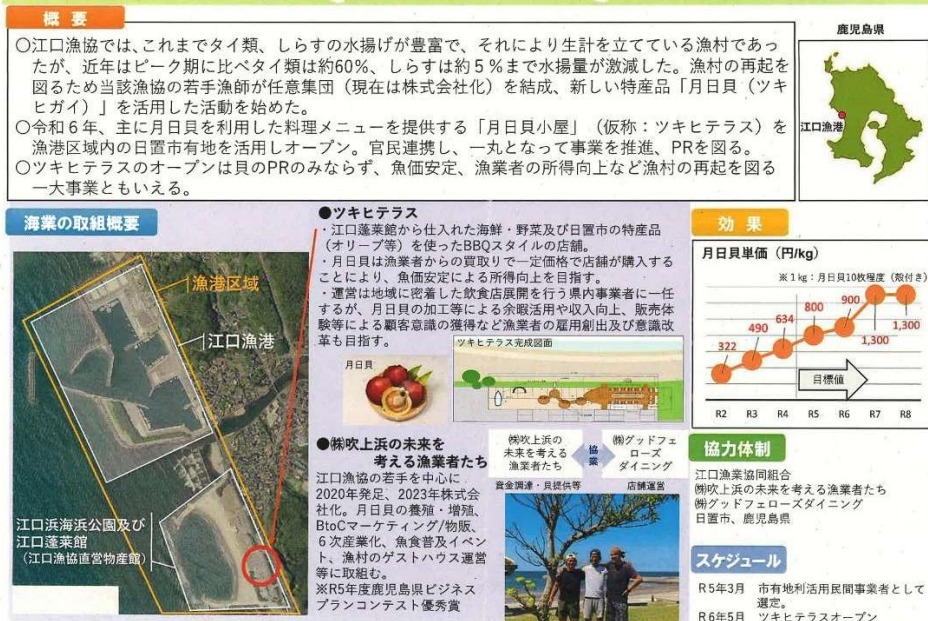


図3 江口漁協の取組み概要